

## ラブストーリーをふたつ。

飄

々

広報委員

岸本 千種

今年の 6 月 17 日に開催した県医学会総会で、映画監督の佐々部 清 氏にご講演いただいた。会場の下松市「ほしらんど くだまつ」は、梅雨の合間の晴天に恵まれ、集まった人達の和やかな笑顔があふれた。

佐々部監督とえば、映画「八重子のハミング」である。

萩市在住の陽 信孝さんが、ご自身も癌と闘いながら、若年性認知症の奥さんを 2002 年まで 12 年間、在宅介護した実話を基にしている。原作の著書『八重子のハミング』には、介護保険なしで新オレンジプランを実施した体験談が、短歌を交えながら、ありありと正確に、かつ穏やかな文章で書かれている。

著者の隣には長女一家が住んでいて、事実上の二世帯住宅で関係も良好であった。地域における連携もできていた。長年の付き合いの「かかりつけ医」の存在も大きい。映画では、梅沢富美男さんが、テレビでの毒舌ぶりとは大違いの、おおらかで頼りになる懐の深いかかりつけ医役を演じていた。

最初は、重そうな話だけど、仕事柄一度は見ないといけないと思い、映画館へ行った。

萩市の景色が美しく趣があった。周南市も徳山医師会病院を筆頭に生き活きと描かれていて嬉しい気持ちになった。

音楽療法、認知症サポーターや認知症カフェに当てはまる場面もあり、支援体制の作り方に感心した。トイレで会津磐梯山を歌って、しゃがませ

る場面には、つい笑ってしまった。深刻な場面だからこそ、重くなり過ぎず良かった。

主演の升 毅さんの端正で誠実な佇まいと語り良かったが、八重子さん役の高橋洋子さんの表情・姿勢・歩き方は真に迫っていた。今の高橋さんが、本当にこんなに老いてしまったのかと不安になるくらいの名演技だった。

若いころの高橋さんは、NHK 朝ドラ「北の家族」(1973 年)のヒロインであり、作家としても輝いていた。

ブルーレイディスクを買って自宅でも見た。特典映像の「メイキング」に、今の高橋さんが登場している。オレンジ色の花柄ワンピース姿が素敵で、健康的で知的で安心した。

ブルーレイディスクの音声で「日本語 2」を選ぶと、本編の映像を流しながら「升 毅、佐々部監督によるオーディオ・コメンタリー」が聞けた。裏話や雑学が満載で、予想以上に面白かった。映画作りも、医療と同じく多職種連携である。監督には、チームをまとめ機能させるリーダーシップが必要で医師の仕事と似ている。

佐々部監督の医療関連の映画で、もう一本。2011 年の「ツレがうつになりまして。」。

うつ病の夫(ツレ)と暮らす漫画家の話である。2008 年の NHK 大河ドラマ「篤姫」でも共演していた、宮崎あおい & 堺 雅人が夫婦役を演じている。

もともとは正社員(ハードウェアメーカーのサ

ポート係)の夫と、扶養家族で漫画家の妻と息子みたいなイグ(グリーンイグアナ)という組み合わせだった。

ツレは、専門学校在学中に不景気になり卒業時には就職が決まらず、長時間の深夜バイト等々を続けた後、途中入社でやっと掴んだ正社員の立場であった。ところが人員削減の結果、社員が 30 人から 5 人に減った。残れて張り切ったが、苦情電話の処理に加えて、慣れない苦手な仕事が増え、負担が重くなり過労になっていく。人員削減の半年後、ツレはうつ病になり、妻の勧めで退職したが、ほどなく会社自体もなくなってしまふ。

妻も漫画家とは言え、売れてはいなかった。三食昼寝付きながら、マイナス思考だらけで不完全燃焼の日々を送っていた。ツレがうつになって切羽詰まったことで、仕事への意気込みも全く違ってくる。覚醒して才能を開花させる。あたふたしながらも乗り越えて成長していく。

彼女は、大雑把なようで本質をつかむ能力が高い。しかもそれを一旦自分の中にとどめてから軽やかに相手に負担のない方法で表現できる。

もともと彼女の才能を評価して、黙々と応援していたのがツレである。結婚後、5 年間は生活を支えた。うつ病になったことで、結果的には彼女が売れるきっかけを作った。専業主夫兼マネージャーとして裏方を引き受け、漫画家としての彼女を支え成長させた。役割にこだわらず柔軟に、漫画家&専業主夫というのもアリなのだ。

ツレと彼女の行動パターンや性格傾向には、それぞれかなり特徴があるが、お互い補完できる組

み合わせだったのが良かった。ツレは、本来の自分のパターンを活かして生きることができるようになった。

原作者の細川貂々さんの『ツレがうつになりまして。』『その後のツレがうつになりまして。』を読んだ。

普通の文庫本サイズで、しかも 8mm の薄さである。中身は漫画であり、劇画ではなく、コミックエッセイでギャグ漫画である。一瞬、意外に思ったが中身は濃く深い。コミックだからこそ複雑で微妙な事もスッキリ頭に入る。温かみがあるし、正確でバランスが良い内容である。美談やきれいごとせず、失敗談も反省点も記しているので参考になる。

映画の後日談が気になった。一旦ハッピーエンドでも、再発の可能性もあるし、人気漫画家になった妻と専業主夫では、二人のチームワークも揺らいでいるかもしれない、と意地悪目線で読み進めた。

その答えは、著書『7 年目のツレがうつになりまして。』にあった。原作者は 38 歳で出産し、マタニティブルーを乗り越えて親子 3 人で成長している。何があってもツレと共に人生を続けていくという原作者の筋が一本通っており、安定感と力強さが伝わって来る。

自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害  
保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

あなたにしあわせをつなぐ

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代理店  
共栄火災海上保険株式会社 代理店  
**山 福 株 式 会 社**  
TEL 083-922-2551